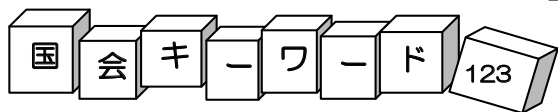


参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	国会キーワード「審議中継の字幕付与」
著者 / 所属	佐藤 誠司 / 庶務部広報課
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	477 号
刊行日	2025-7-25
頁	185
URL	https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/ripou_chousa/backnumber/20250725.html

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください（TEL 03-3581-3111（内線 75013）／ 03-5521-7686（直通））。



審議中継の字幕付与

令和6年8月23日、第213回国会（常会）閉会中審査の財政金融委員会から、参議院インターネット審議中継の映像に字幕が付与されるようになりました。

令和元年7月に行われた第25回参議院議員通常選挙において重度の障がいを持った候補者が当選したことをきっかけに、参議院のバリアフリー化の議論が活発化しました。同年11月、参議院議院運営委員会理事会の協議を受け、与野党議員による「バリアフリー化推進プロジェクトチーム」（以下「バリアフリーPT」という。）が立ち上がり、令和2年6月、車いすで登院・登壇ができるよう正玄関等へのスロープの設置、福祉車両の導入等、施設面でのバリアフリー化とともに、令和3年の常会から参議院の審議中継に手話通訳を付与することが提言されました。これを受け、第204回国会（常会）の施政方針演説、所信表明演説及び、これに対する各会派の代表質問の際、従来の審議映像に手話通訳映像を合成表示（ワイプ）した映像が生中継されました。これは、インターネットを通じて配信される参議院の審議中継映像のバリアフリー化が一步進んだ瞬間でした。

この「バリアフリーPT」における協議中に手話通訳と共に検討されたのが、字幕付与でした。これまで、リアルタイムで字幕を付与する手法としては、複数の入力者が交代しながら字幕データを入力する「リレー方式」、音声認識を利用し字幕制作用の話者に復唱させて字幕データを作成する「リスピーク方式」、専用の音声認識システムを開発し字幕データを作成する「音声認識方式」等がありました。しかし、いずれも、放送での利用を目的とした、高額なシステムでした。よって、当時の技術では導入に高額な予算を伴うことから実現可能性に疑問が生じ、その構想は実現されませんでした。

この度、参議院が導入した自動字幕は、AI技術を用いて、ほぼリアルタイムに字幕が表示（実際の中継映像から1分程遅れて表示）されます。音声認識率は95%以上を満たすことを仕様としており、調達時のテスト結果は98%以上となっています。これほど高い音声認識率が出せる理由は、参議院の審議中継では、発言者一人一人のマイクから收音するクオリティの高い音声に由来した、認識しやすい音声によるものと考えています。また、インターネットにおける字幕表示については、既にYouTube等のSNSでは、一般的になっており、聴覚障がい者以外の方においても、発言内容を耳で聞く以外に、文字で見ることにより理解度が高まる等、導入後に多くの方の利用が予想できることが分かりました。さらに参議院においては、映像の視聴「速度」の設定（0.5倍～3倍）と字幕表示を組み合わせ、生中継及びVOD（ビデオオンデマンド＝録画中継）でも利用できるようにし、中継映像の発言の理解度を上げていただけるようにしているところです。

参議院審議テレビ中継の開始から35年余り。全ての人に「開かれた参議院」であるために、議会活動の姿をダイレクトかつリアルタイムに多くの人に伝えることのできる審議中継を目標にバリアフリー化への取組を進めていきます。

さとう せいじ
（佐藤 誠司・庶務部広報課）